



多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、解決策が洗練され、個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

というプロセスのことを言う。

事例:

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会与県立病院の対立に端を発し、救急車の市外搬送が多数発生した。その後、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことによって、問題解決のためのシステムを考案し、実行。現在では、高度な治療までを地域内で実現されている。また、3年前より小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながった

## 熟議の効果1：行政改革

- ・教育についての情報と議論が市民に広く開放される。
- ・行政が教育政策についての情報提供と熟議のファシリテーションをおこなうことで、市民と共に教育政策を考えることができ、現場と行政の間にある問題認識のギャップを縮小することにつながる。
- ・社会課題ベースの議論ができるので、「縦割り、横割り」行政を乗り越えた政策形成につながる。それによって、教育現場における社会課題について、迅速で効率的な対応が可能となる。

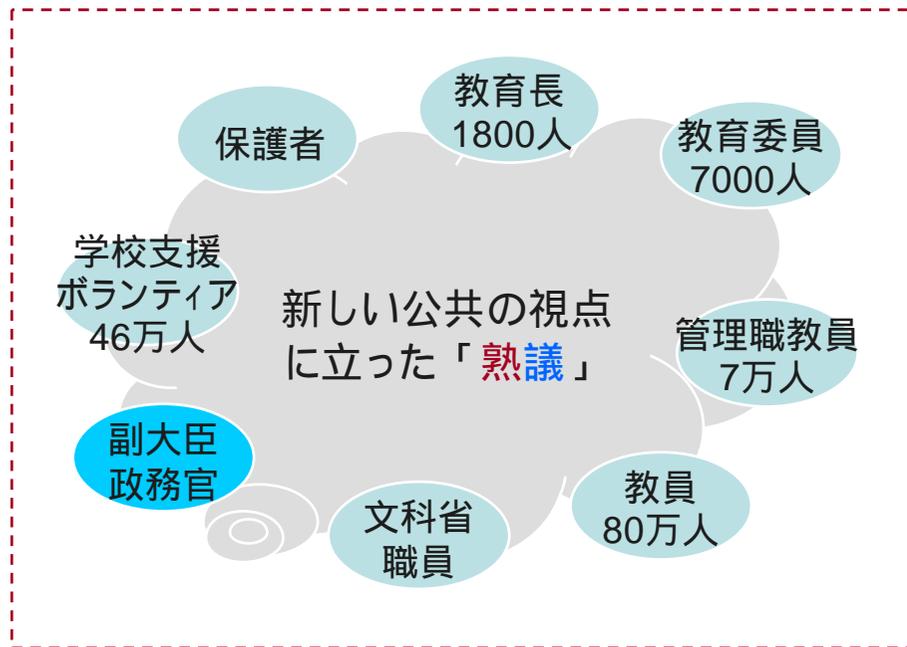
## 熟議の効果2：新しい教育文化の創造

- ・正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ合い、課題を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- ・これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- ・それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認するようになる。また、地域のつながりが形成される。

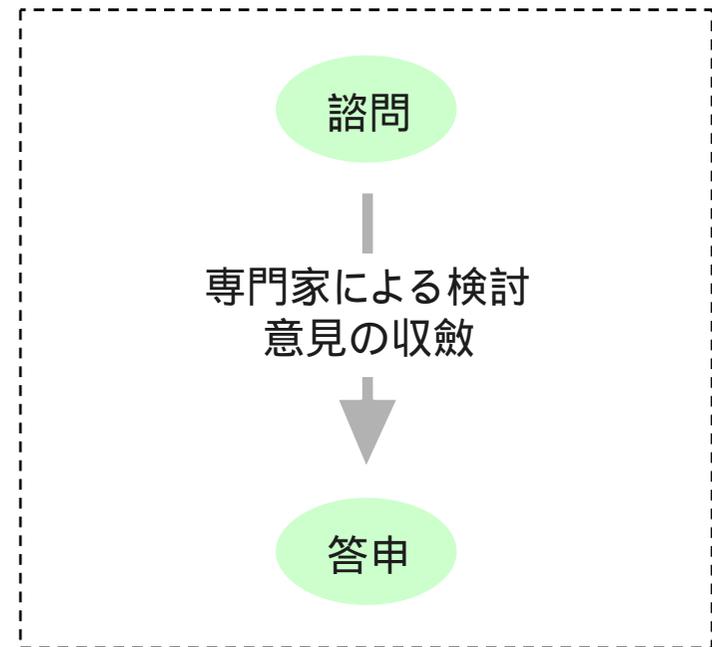
# 「熟議」に基づく教育政策形成の取組

中央教育審議会等における専門家による検討に合わせて、車の両輪として、当事者による「熟議（じゅくぎ）」に基づいた意見を踏まえ、政務三役にて政策決定を行う。

## 当事者による「熟議」



## 中央教育審議会等



「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会

政務三役

教育政策の決定

# 「熟議」に基づく教育政策形成の取組

当事者による「熟議」に基づいた意見を収集するため、  
「リアル熟議」と「ネット熟議」（熟議カケアイ）をハイブリッド展開

## リアル熟議（現場対話での熟議）



平成22年4月17日開催の  
「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」  
からスタート

## ネット熟議（Webサイト上での熟議）



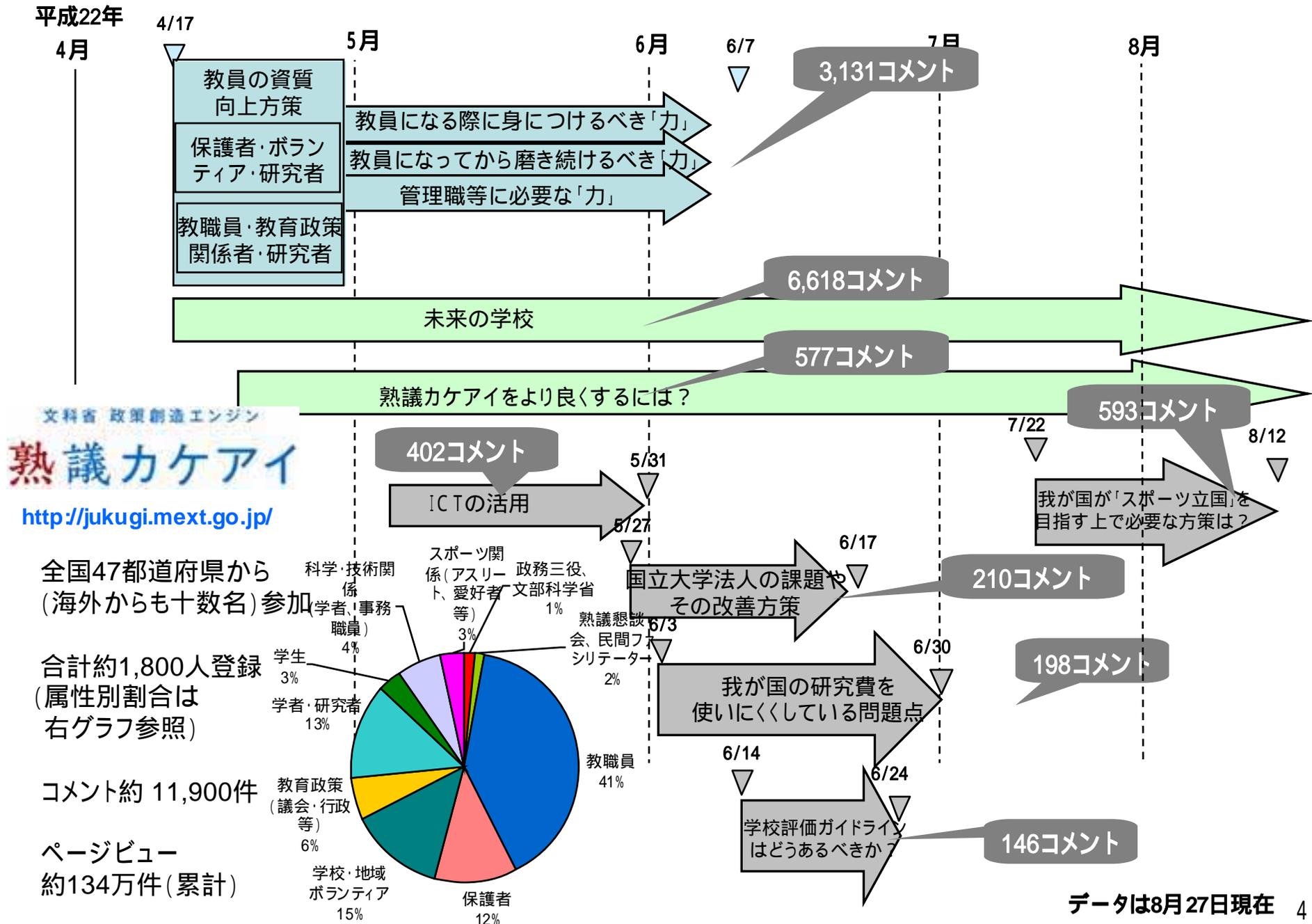
平成22年4月17日オープンの  
Webサイト「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」  
にて「教員の資質向上」等をテーマにスタート



### 【コンセプト】

実際に対面で行う「現場対話での熟議」と、時間・場所の制約が少ない「Web上での熟議」をハイブリッド展開  
それぞれの熟議には、「教育現場の当事者」と「政務三役」が参加  
文部科学省職員は、熟議を促進する情報提供(事例やデータ)・ファシリテーター役として参加  
熟議のプロセスはネット等で公開(特に、「Webサイト上での熟議」はリアルタイムで公開)

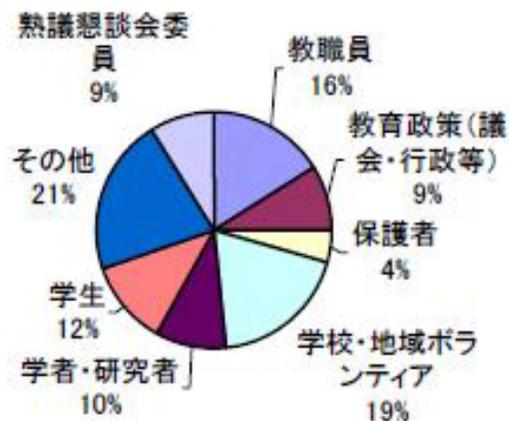
# ネット熟議（「熟議カケアイ」サイト）の運営状況



## 「リアル熟議」の展開(1): 文部科学省「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」

文部科学省「熟議」のキックオフとして、2010年4月17日、文部科学省講堂において開催。シンポジウム冒頭、鈴木文部科学副大臣より「熟議」に基づく教育政策形成の重要性の呼びかけとともに、Web サイト「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」の設置が発表された。その後、グループ毎に「小・中学校をよりよくするにはどうすればよいか」をテーマに、教育関係者と副大臣・大臣政務官・文部科学省職員が車座になって熟議を行い、約200名の参加者で埋め尽くされた会場は熱気に包まれた。

- 日時: 平成22年4月17日(土)13:00 ~ 16:50
- 場所: 文部科学省講堂(東館3階)
- 参加者  
鈴木寛 文部科学副大臣  
高井美穂 文部科学大臣政務官  
「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会委員  
教育現場に関わられている一般参加者約200名



## 「リアル熟議」の展開(2)

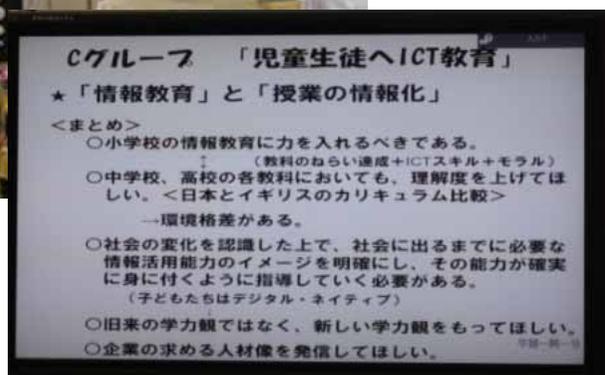
「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会委員等により先行的実施。  
「リアル熟議」参加者が、新たな「リアル熟議」を主催したり、「ネット熟議」(熟議カケアイ)の参加者になるという波及効果も生まれており、全国津々浦々で開催中。  
現場主導での「リアル熟議」実施を呼びかけ、その予定を「熟議カケアイ」サイトで公開し共有するとともに、実施主体に対して、文部科学省が参考資料の提供等適宜支援。  
「リアル熟議」の実施結果について、「熟議カケアイ」サイトで公開し共有。



横浜リアル熟議(ヨコハマの学校と地域)  
日時:平成22年6月23日(水)18:00~20:00  
場所:横浜市都筑区役所6階大会議室  
参加者:63名(1グループ約8名)

学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」の重要性が強調され、具体的な活躍の方策等が熟議された。  
終了後、具体的なアクションプランを作り上げるワーキンググループが立ち上がり活動中。

## 「リアル熟議」の展開(3)



千代田区リアル熟議(ICT)  
日時:平成22年7月4日(日)13:00~17:00  
場所:千代田区立九段中等教育学校  
参加者:44名(1グループ約7名)

Webサイトでの熟議、学校教育の情報化に関する有識者の懇談会、双方の議論を踏まえた「マインドマップ」を下敷きに議論が深められた(写真左)

熟議の結果、「情報教育」と「授業の情報化」について独自にパワーポイントで整理し、発表したグループもあった。(写真右)

四ツ谷リアル熟議(四ツ谷の学校)  
日時:平成22年7月17日(土)14:00~17:00  
場所:新宿区立四ツ谷中学校  
参加者:約40名(1グループ約6名)

学校に地域が参加し、地域も元気になる方策について、多様な地域の参加者も加わり、議論が深められた(写真左)「学校的意思決定のプロセスへの子どもの参加」と「教育政策形成への現場の参加」の必要性が重ねて語られた最後に校長先生からは「熟議って良いですね!」という感想のコメントがあり、終了後、校長室で今後の四ツ谷での熟議の継続方策について、番外編熟議が行われた(写真右)

## 「リアル熟議」の展開(4)



### 慶應大学リアル熟議

日時:平成22年7月24日(土)13:00~17:00

場所:慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎

参加者:約100名(1グループ約10名)

大学生、高校生、経営者、企業人事担当者等が参加し、大学入試制度、大学内の学習・研究・活動、就職と進学等について、議論が深められた

鈴木文部科学副大臣、金子熟議懇談会座長、田村熟議懇談会副座長等、約10名の文部科学省職員も参加し、様々に意見交換がなされた。

入試に関する議論では、高校生から、進学の先の職業・就職に関する情報がもっとほしいといった意見が出され、高校の教員やオープン・キャンパスを主催した学生からも、大学が提供したい情報と高校生が求める情報に乖離がある旨指摘がなされた。

就職に関する議論では、学生の主体性が醸成されるために、本熟議のように、学生、教員、企業人等との間で情報交換、意見交換する場があるとよいといった意見も出された。

## 「リアル熟議」の展開(5)



### リアル熟議 in 秋田

日時:平成22年8月1日(日)13:00~16:00

場所:由利本荘市立 本荘南中学校

参加者:約122名(1グループ10名)

県内各所から、市町村教育長をはじめとした教育委員会関係者、学校長、教職員、PTA等が参加し、前半は「読書と図書館」について、後半は選択テーマ(子供たちの夢、家庭教育等)で議論が深められた

議論の基礎資料として、全国学力調査のアンケート結果が活用された

鈴木文部科学副大臣、佐々田熟議懇談会委員、貝ノ瀬熟議懇談会委員、柏谷熟議懇談会委員のほか、板東生涯学習政策局長をはじめとした文部科学省職員も参加した。

読書と図書館に関する熟議では、親子での読書の必要性などが強調された。また、今後継続して熟議を行う必要性について参加者から声が挙がり、「PTA熟議」の実施などの提案が行われた。

## 「リアル熟議」開催を促進・支援

「熟議カケアイ」サイト上で、リアル熟議の開催を呼び掛け、全国の熟議の予定・結果等を公開・共有

### 【支援内容】

Webサイト熟議カケアイへの実施告知・結果の掲載

熟議のテーマに関する資料の提供(関連データ資料など)

熟議の実施に際しての参考資料の提供(熟議実践パッケージ「熟議虎の巻」、アンケートのテンプレート)等

リアル熟議の開催を検討する団体は、  
文部科学省までご連絡・相談ください。  
宛先: jukugi@mext.go.jp



### (「リアル熟議」の実績・予定)

日時	テーマ	場所	実施主体
4月17日(土)	小・中学校をよりよくするにはどうすればよいか	文部科学省講堂	文部科学省
6月23日(水)	ヨコハマの学校と地域～明日からできること～	横浜市都筑区役所	横浜市教育委員会・北部学校教育事務所 北部4区役所
7月4日(日)	ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか?	千代田区立九段中等教育学校	NPO法人とうきょうED研究会
7月17日(土)	四谷地域の学校をより豊かにするために、私たちができること	新宿区立四谷中学校	エデュケーションルフューチャーセンター
7月18日(日)	これからの津和野町における教育	島根県津和野町日原山村開発センター	津和野の教育を考える会
7月24日(土)	大学は、もういらない?～私たちと大学はいかにあるべきか～	慶應大学 日吉キャンパス 来往舎	リアル熟議を実施する学生の会
8月1日(日)	学校・家庭・地域の連携強化に向けて	秋田県由利本荘市立本荘南中学校	由利本荘市教育委員会
8月7日(土)	学校のために、これから自分ができること	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校	NPO法人日本教育再興連盟
8月7日(土)～9日(月)	教員熟議2010 先生の学校	長野県下伊那郡阿智村清内路 清内路中学校	エデュケーション・フューチャーセンター
8月8日(日)	小中学校をよりよくするために - 事務職員からの提言 -	愛知県豊橋市民センター(カリオンビル)	学びの支援ネットワーク
9月4日(土)	「未来の学校」～2020年の学校を語ろう	青森県横浜町ふれあいセンター	横浜町教育委員会
9月4日(土)	小・中学校をよりよくするために～私たちができること～	愛媛県松山市立椿小学校	愛媛リアル熟議を実施する会
9月18日(土)	四谷地域の学校をより豊かにするために、私たちができること 第2回	新宿区立四谷中学校	新宿区立四谷中学校(仮)
12月19日(日)	未来の学校	未定	NPO法人教育支援協会
日程調整中	大学で何を学ぶべきか・大学は何のためにあるのか	青山学院大学青山キャンパス	NPO法人教育支援協会、学生団体STUNITY

他、多数調整中